ゲームの規則（1939）

LA REGLE DU JEU
RULES OF THE GAME

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 フランス
色彩 B&W
時間 106分
初公開日 1982/09
公開情報 フランス映画社

【解説】

ルノワールが“バロック音楽の精神に則って登場人物が動き回るような映画を作りたい”と願って撮りあげた、映画によるフランス・バロックへのオマージュ。ミュッセの戯曲『マリアンヌの気まぐれ』が直接の発想のもととなっている。主人公クリスチーヌ（オーストリアの大公夫人で彼女自身が役柄のモデルとなったグレゴール）は貴族のロベール・ラ・シュネイの妻。飛行家アンドレ（トゥータン）はその愛人だった。一方で、ロベールにも別れようとしていた愛人があった。彼らの催すパーティに大勢の名士たちが集まる。もちろん、アンドレもその一人。だが、やはり同じ階級のド・サン・トーバンと夫人が親しくしているのを見て、彼は猛烈な嫉妬に駆られる。その陰では下々の者たち、彼らの領地の密漁監視人シュマシェールが妻リゼットに配下のマルソーが色目を使ったとして怒り狂って猟銃で追い回す。そうした上を下へのインモラルな騒動をそれとはなしに見つめるのは愛すべき食客オクターヴ。この狂言回し的人物をルノワール自身が見事に演じ、悲劇と喜劇の間を揺れ動く作品自体と同質化しており、素晴らしい。彼はこの群像劇で“ゲームの規則”に囚われながら、人間社会の構造を、そして、戦争へと傾いていく時代の風潮を暗に批判している。しかし、登場人物たちに“敗者となった自分たちの姿”を垣間見た観客たちはこの映画を拒み、最初の公開は大惨敗に終わる。５９年になってようやく完全版ができる（日本公開は更に２０年のち）まで、本国フランスでもまさに埋れた傑作となっていた呪われた作品で、ルノワールはあまりの不評に、一時は以後の映画製作を諦めかけた、と言う。

【クレジット】

監督	ジャン・ルノワール	Jean Renoir
製作	クロード・ルノワール	Claude Renoir
脚本	ジャン・ルノワール	Jean Renoir
脚本協力	カルル・コッホ	
撮影	ジャン・バシュレ	
音楽	ロジェ・デゾルミエール	Roger Desormière
出演	マルセル・ダリオ	Marcel Dalio
	ジャン・ルノワール	Jean Renoir
	ノラ・グレゴール	Nora Gregor
	ローラン・トゥータン	
	ポーレット・デュボスト	Paulette Dubost
	ミラ・パレリ	Mila Parely
	オデット・タラザク	Odette Talazac
	ジュリアン・カレット	Julien Carette

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.